



第5号

■発行 花桜会大学部会
 ■責任者 益田 理恵子
 熊本市榎木6-5-1
 096-338-8840

■題字 小島曜子(国文・2回生)
 ■印刷 (株)河田印刷

山菜を食べる

生活科学部 学部長 井上 稔



山菜は深山にあるものではない。人と同居している、手軽に食べられる野草である。栽培植物のように収量は多くなく、硬かったり独特の香りをもつていたりするが、食べてなかなかおもしろい。そこでエピソードを少し書いてみる。

カンゾウ

何年かまえの3月の終わり、長者原に行った。やまなみハイウェイに雪の心配がなくなった頃で、日の当たらない斜面には雪が残っていた。以前泊ったことのある宿で一泊し、時間があつたので国民宿舎コスモス荘に行くと、庭にはカンゾウの芽が沢山あつ

た。もちろん私が同定した訳ではなく、宿で働くひとが教えてくれた。春の料理に出すポピュラーなものだそう。あけくに食べる分をくださったので、酔いずりで食べてみると、すこぶる美味しかった。

むかしトリカブトの芽をカンゾウの芽と間違えて食べたという話を雑誌で読んだことがある。談笑していると、気分も悪くないのに急に吐き気をもよおし、二人で縁側で吐いた。何ということもないので、また戻って少々飲んで寝た。朝ゆっくり起きてびっくりした。ニワトリがみんな死んでいる。当時は

縁の下などでニワトリを放し飼いにしていた。吐いたものを食べたようだ。芽だけを見てその植物を言い当てるのは大変難しいので、よほど詳しいひとが居ない限り単子葉植物の芽は食べないことにしている。

しかしカンゾウの芽は忘れられないので、確実にあつたら食べてみようと思っていた。最近では植木や花を売っているスーパーも多いので、春のうちにカンゾウを買った。植木鉢で秋の始めに花が咲き、間違いないこともわかった。冬には地上部が枯れた。春が来て、芽がでてき

たので、枯れない程度にただいで酔いずりで食べた。

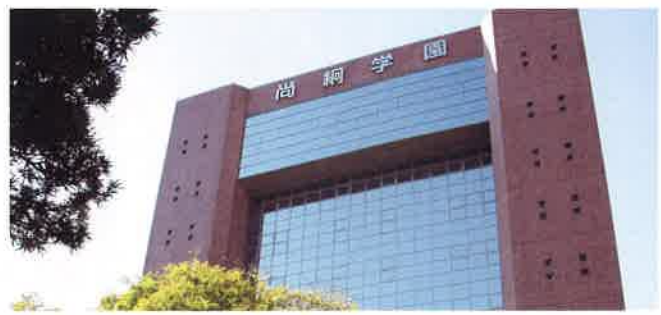
なつてハカマが抜けるので、爪で取る手間がない。その代り短いツクシになる。料理の仕方は卵とじしか知らないが、くせもなく美味しい。頭の胞子がいいので、開いたものは敬遠する。車に乗るときはいつもそんな気持ちで周りを見ていたら、あつた。阿蘇の草原にはスギナがいつぱいだ。春先に阿蘇に行く機会があつたら是非ツクシを取つてこようと思つている。しかし阿蘇は遠い。もっと近くに無いものかと思つていたら、坪井川遊水池の草むらの一部にスギナがみえた。次の春は忘れないように。

ヨモギとヨメナを混同していたが、いわゆる野菊はヨメナらしい。どっちにしてもキク科植物に有毒のものはないので、ハハコグサ(オギヨウ)、フキ、ツワブキ、タンポポ、アザミなど食べることがある。

野外の植物を食べるときは余程注意が必要だが、家庭菜園も安心はできない。細胞分裂阻害剤のホルヒチンはイヌサフランに含まれる薬効成分であるが、植物はコルチカムという名で花屋で売られている。はやりのクリスマスローズは心臓や皮膚に対する毒草だそう(植松黎、毒草を食べてみた。文春新書、2000)。風呂に入れたりお茶にしてはいけない。

ツクシ わたしの住んでいるまわりにはスギナが少ない。鉄道の土手にも無い。あちらこちら荒れ地を探してみても見当たらない。保育園の前の公園のフェンス下に少しだけあるが、水が少なくて期待できない。それでも季節を待つて摘んできた。ハカマとハカマの間が短い、背の低いものだった。ハカマの根元を鋏で切つていくと、輪に

なつてハカマが抜けるので、爪で取る手間がない。その代り短いツクシになる。料理の仕方は卵とじしか知らないが、くせもなく美味しい。頭の胞子がいいので、開いたものは敬遠する。車に乗るときはいつもそんな気持ちで周りを見ていたら、あつた。阿蘇の草原にはスギナがいつぱいだ。春先に阿蘇に行く機会があつたら是非ツクシを取つてこようと思つている。しかし阿蘇は遠い。もっと近くに無いものかと思つていたら、坪井川遊水池の草むらの一部にスギナがみえた。次の春は忘れないように。



●募金のお願い

平成十八年度より尚綱大学は、「文化言語学部」及び「生活科学部」を新設し、それに伴い九品寺キャンパスに新校舎が建てられた事は周知の事と存じます。

花桜会大学部会では、後輩の育成を側面から応援する趣旨をご理解頂き、寄附をお願いいたします。

- 一口二、〇〇〇円です。
- 口座番号 61259
- 加入者名 花桜会大学部会

「韓国伝統文化体験の旅」を実施!

平成22年3月17日〜20日に尚綱大学文化言語学部と生活科学部で韓国語を学んでいる1年生10名が韓国・釜山市で「韓国伝統文化体験の旅」を行いました。同ツアーは今回で3回目になります。天候にも恵まれ、有意義な体験をすることができました。



福岡国際旅客船ターミナルに集合し、まずは両替と出国手続きをしました。メンバーのほとんどは海外旅行は今回が初めてで少し緊張した面持ちでしたが、無事、「カメリアライン」(福岡-釜山間を就航している大型フェリー)に乗船。6時間で釜山に到着し、ホテルでチェックインした後、



早速、韓国料理(ブルコギ、韓国風すき焼き)を食べました。その後は釜山タワーで異国の夜景をバックに記念撮影。2日目からは「釜山近代博物館、国際市場、ジャカルチ市場、温泉エステ」で文化体験をしました。もちろん、本場の韓国料理をたくさん味わうことができました。また、釜山の東亜大学の学生たちとの交流会では、学んだ韓国語に英語や日本語を交えての少し不思議なコミュニケーションを楽しみました。次は、ツアーに参加した嘉場麗圭さん(文化言語学部2年生)の紀行文です。「今回の韓国旅行は、私にとって初めての海外旅行

でした。ブルコギやキムチなど、韓国ならではの料理はどれもおいしく、ボリュームがあり、値段も魅力的でした。市場では威勢のいいおばさんたちに圧倒されつつも、学んだ韓国語を生かして楽しく買い物することができました。自分の韓国語が通じたことがとても嬉しかったです。



また、東亜大学の学生との交流会では、日本語・韓国語・英語の3ヶ国語を駆使して会話しました。国や言葉は違っても伝えようとするは必ず伝わるということを学びました。実際、言葉の壁を感じないほど、楽しく、笑いの絶えない交流会になりました。これから韓国語をより生かせるよ

う、今まで以上に授業を積極的かつ意欲的に取り組もうと思います。」

日本文化研究 セミナーで神楽鑑賞

日本の伝統文化に触れる「日本文化研究セミナー」では、10月4日(日)に阿蘇市波野にて開催された「第18回神楽フェスティバル」を參觀しました。「八岐大蛇」「岩戸開」など、古代神話に多く材をとった上演

にも、神楽初体験の学生も興味と理解を深めました。

中国語 スピーチコンテストで 優秀賞

11月3日「第27回全日本中国語スピーチコンテスト熊本県大会」朗読・大学生の部に本学文化言語学部3名と生活科学部3名が出場しました。

全員1年生で中国語は第二外国語で半年程度しか勉強していませんが、果敢に挑戦しました。

結果、見事優秀賞・敢闘賞・特別賞を受賞しました!日本語でも人前で話をすることは難しいところ、中国語

で頑張ってくれました。この経験はきつと将来に活かされるはず。本学部では外国語教育に力を入れ、積極的に発信していきます。

学園祭報告!

尚綱祭! 榎木「小説の国・おはなしのくに」去る11月21日・22日の2日間、大学・短期大学部合同の学園祭が開催されました。

初日は文化系サークルによる文化発表会が行われ、2日目にミスコン、カラオケ大会、ゲストステージ等、楽しいイベントが開催されました。毎年恒例の書道展、美術部の作品展示も大盛況でした。

また当日は進学説明会が開催され、たくさんの方々にご来場いただきました。



卒業した今



国文科第五期生 塚本 典代 (旧姓 吉田)

私が尚綱大学を卒業して二十七年になります。卒業後は放送局で数年アルバイトをした後、自衛官の夫と結婚し、一女一男に恵まれ、現在の生活に至っています。

尚綱大学では書道部に所属し、先輩や後輩と合宿で夜遅くまで練習したり!先生から作品の添削やご指導いただいたり楽しく充実した部活でした。その上、卒業制作展も参加できたことは忘れられない思い出です。

卒業しても書道の教員の道へは進みませんでした。が、「書」に関しては常に何らかの形で携わってきました。これまで放送局では何千枚もの年賀状の宛名書きや感謝状の全文の手書きなどを頼まれて書いてきました。これは私にとって実に価値のある経験をさせていた

「我が子」を描くことで



昭和六十二年(旧姓 野野) 早苗 13回生 大英 保文

昭和六十二年に尚綱大学英文科に入学しました。

小さい頃より、美術に興味を抱いていた私はすぐに美術部に入部しました。

その頃から油絵を描き続けて約二十年が、経とうとしています。途中ブランクはありましたが、常に心の中は描きたいという思いでいっぱいでした。でもこれと言って確立したモチーフが無く迷いばかりの日が続いていました。本格的に描きたい！というモチーフに出逢ったのは、我が子がこの世に誕生してからでした。その時、その瞬間の我が子の姿を残したいという思いで、一心に描きました。写真やビデオでは伝えられない親心というものは、絵でしか表現出来ないという事に気づかされました。描く時の母親の子どもに対する思い入れは何カ月もかけて

絵の中に込められます。完成した時の喜びはひとしおです。でも子ども達は何だか照れ臭そう!!

これも今は亡き谷脇先生の温かい御指導によるおかげです。心から感謝したいと思います。

この世を去られる数カ月前に、ご指導を頂いた時の作品を皆様にご紹介したいと思えます。

今まで描いた我が子シリーズの作品は子ども達が巣立っていく時に私が持たせる事が出来る唯一の財産です。

これからもその時、その瞬間の我が子の姿を描き続け、天国の谷脇先生にぜひ観て頂ける様な温かい作品を描き続けていきたいと思えます。



大学生活 4年間を終えて



尚綱大学生活科学部 理学部 栄第1回卒業生 中野 晶子

平成22年3月21日に国家試験当日を迎えた。いよいよ国家試験、大学生活4年

験に失敗してしまつたら：等という不安は同じように友人達も感じていたことである。

国家試験の勉強は辛い日々であつた。それまで学んできたが、国家試験は出題範囲も広く、どれ程勉強しても中々模試の点数が伸びず不安から勉強に身が入らない時期もあつた。

しかし、それでも頑張ることができたのは国家試験合格という同じ目標に向かう仲間がいたからこ

そである。また、私たちを支え、忙しい中時間を割いて質問を受け付けて下さる先生方や助手の先生

方、学校職員の先生方の温かいご指導があつたからこそである。多くの先生方に支えられ、仲間と一緒に頑張ってきたことは辛さ以上に大きな喜びでもあつた。苦楽を共にした仲間は一生の仲間

だと心から感じている。また、その経験は社会人となった今の私の原動力ともなっているといえる。私は大学で大切な友人に出会えたこと、素晴らしい経験をすることができたことに心から感謝している。

生活科学部第一期生、国家試験合格率など、数字からは私たちの顔が見えるものではない。しかし、そこには確かに私たち卒業生81名が在籍していたという歴史がある。私たち一人ひとりにそれぞれの毎日があつて、4年間の間に楽しい事も辛いこともたくさん経験してきた。また、私たち全員が国家試験合格に向けて確実に努力してきたのである。4年生になるとこの研究室も遅くまで明かりが灯るようになった。皆頑張っているのだ、私も頑張ろうと自然と力が出てきた。私は一人ひとりの頑張る気持ちは本当に大きな力であると感している。

国家試験の緊張から解放されて、一息もつかぬまま社会人となった。環境の変化に戸惑い、まだまだわからない事ばかりで日々学ぶことばかりである。しかし、同じように4年間互いに励んできた第一期生の仲間も今それぞれの場所で充実した日々を過ごしているのだらう。あの友人も今きつと頑張っているのだらうと思いをめぐらせると明日へ向かう元気が湧いてくるのである。

だいたと思つています。また「手書き文字」がいかに喜ばれるかを私自身が実感しています。最近では、パソコンでの作成が当たり前の時代ですが、「手書き文字」にはパソコンでは表現できない温かきがあると思います。実際、私も三百枚ほどの我が家の年賀状の宛名はすべて手書きです。このようにして私は、尚綱大学で学んだことや今までの経験を生かし「手書き文字」の良さを伝えるために、二年前に公文の書写教室を始めました。結局、尚綱大学で書を学び、書に触れ合つたからこそ今の仕事があると感しています。

さて今年の春、娘は尚綱高校を卒業して尚綱大学短期大学部幼児教育学科に進学しました。母親が学んだ榎木キャンパスへ再び娘が通うのは嬉しいものです。また息子も父親と同じ自衛官を目指し、神奈川県の上自衛隊高等工科学校へ入校しました。

今日の私があるのは、家族や同居する実母の理解ある協力のお陰だと深く感謝している毎日です。

OPEN CAMPUS
2日連続で開催
7/18日・19日
主な内容 ●学部・学科・コース紹介 ●キャンパスツアー
●模擬授業など ●日程は入試センターまでお問い合せ下さい
8月以降のオープンキャンパス
8/7日・11/21日 学園祭と同時開催!
※オープンキャンパスの詳細については、ホームページをご参照ください。

ACCESS MAP



楡木キャンパス
文化言語学部
●文化言語学科
日本文学言語コース
普通コース
アメリカ東アジア文化基礎コース
地域文化社会コース
尚綱大学短期大学部
●幼児教育学科
〒861-8538
熊本市楡木6-5-1
TEL:096-338-8840
FAX:096-338-9301



九品寺キャンパス
生活科学学部
●栄養科学科
尚綱大学短期大学部
●総合生活学科
●食物栄養学科
〒862-8678
熊本市九品寺2-6-78
TEL:096-362-2011
FAX:096-363-2975

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

尚綱大学 検索 
E-mail:nyushi@shokei-gakuen.ac.jp
【お問い合わせ先/入試センター】
〒861-8538
熊本市楡木6-5-1
TEL:096-338-8840(代)
FAX:096-339-1058



平成22年度
尚綱学園花桜会大学部会
— 定期総会のお知らせ —

若葉の萌黄色が少し色濃くなり、初夏の陽ざしに映えて輝いています。会員の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

初夏といえば、尚綱大学同窓会の総会の季節でもあります。今回は、会員の方の「楡木はちょっと遠くて…」という声を取り入れ、学舎を離れて熊本市の中心部で総会を開催致します。その後、熊本のシンボル「熊本城」の探訪をする予定です。

ご案内をして下さるのは熊本城に詳しい豊永英輔氏です。本丸御殿を中心に色々なエピソードを交えながらご紹介頂ける事でしょう。

ご参加お待ちしております。

記

日時:平成22年7月3日(土)
受付:9:30
総会:10:00
場所:国際交流会館
(熊本市花畑町4-8 096-359-2020)
☆終了後、熊本城へ移動し、歴史探訪の予定
☆歴史探訪から参加の方は、11時に国際交流会館前
加藤清正像前にお集まり下さい。

平成21年度総会報告

平成21年6月27日(土)楡木キャンパスにおいて平成21年度の総会を開催いたしました。

例年とおり20年度の事業報告・会計報告をし、21年度の事業計画案・予算案を承認していただきました。

その他の議題は以下のとおりです。

- ①交通費の支給について
- ②奨学金制度の導入について
- ③年会費の徴収について

出席者の皆様から意見を伺う場を設けましたが、いずれの議題も、もう暫く検討することにしました。

三嶋天鴻先生をお招きして「楽しい書」をご指導いただきました。かわいらしい絵はがきや色紙、団扇などに好きな言葉や詩の一節、または絵などを書いて(描いて)楽しみました。子どもたちも参加してくれて、賑やかな中にも和気藹々、有意義な時間を過ごすことが出来ました。出来上がった作品は各自持ち帰ることが出来ました。団扇は来民うちわとして加工していただきました。今ではきっと、それぞれのご家庭の真ん中に飾ってあることでしょう。



原稿をお寄せ下さった方や、編集に携わって下さった方々を始め、会員の皆様、先生方そして尚綱大学にも心を込めて「ホ・オポノポ」。

編集後記

ハワイの言葉「ホ・オポノポ」を唱える事がマイブームになっている。「ありがと」・「ごめんない」・「許して下さい」・「愛しています」という四つの意味を持つのだという。ある雑誌で「気持ちが良い前向きになる」「臨時収入がある」と書いてあるのを見て始めたのだが、そういえば最近、あまり落ち込まなくなつたし、人を責めなくなつた気がする。この言葉には、感謝と友愛(最近はやりの…)が満ちているからだろう。そして、ポジティブな想いはポジティブな事柄を引き寄せてくれる。

